

1月11日（火） 校長より

＜県立中学校で一般選抜＞

- 一般選抜のうち、適性検査1では、国語、算数、理科、社会などを組み合わせた総合的な問題を通して、問題発見能力や解決力、思考力、判断力が問われた。適性検査2では、与えられた課題について考えたことや感じたことなどを文章で表現する力が試された。
- 中学校で求められる資質・能力とはどのようなものなのか、どう問われているかなど、さまざまなことが勉強できる。ぜひ目を通したい。

＜生命に必要なものとしての教育＞

- 社会は、生物学的生命と全く同じ程度に、伝達の過程を通じて存続する。この伝達は年長者から年少者へ行為や思考や感情の習慣を伝えることによって行われる。集団生活から消え去って行こうとしている社会の成員から集団生活の中へ入って行こうとしている成員への、この理想や希望や期待や規範や意見の伝達なしには、社会の生命は存続できないだろう。・・・教育は必須の仕事なのである。（デューイ「民主主義と教育」）

1月6日（木） 校長より

＜今年を始めるための言葉＞

- 「俯瞰する力」と「掛け合わせる力」の二つの力が大切。
- 「虫の目」で情報を多角的に分析、「鳥の目」で全体を捉え、「魚の目」で的確な時期を逃さず決断していく。
- オンラインとリアル双方のメリットを「掛け合わせる」ことによって、有効に機能させる。
- 「機」を新しい芽吹きに変えていく。
- 多様性の尊重と切磋琢磨、対話と協働による風土づくり。教職員や関係者、地域を巻き込んで教育と子育てに熱心な風土をつくっていく。
- 第7次総合教育計画（2022～30年度）。体験や探究活動を大事にし、地域に根ざした福島ならではの学びを進める。
- 今年の県立高校入学生から生徒一人一台端末が導入。個別最適化された学びや協働的・探究的な学びへと変革。

12月28日（火） 校長より

<今年を振り返るための言葉>

- 危機を機会に変えるための挑戦を継続したい。
- 変えられることは変える努力をしましょう。変えられないことはそのまま受け入れましょう。
- 人類の未来を考えると、教育者であることは尊い天職である。

朝の打ち合わせ（12月23日（木）） 校長より

<いわき湯本高校>

- 12月20日（月）、県教委はいわき湯本高校の校章、制服、校歌を発表した。
- いわき湯本高校開校に向け、しっかり準備を進めていきたい。

<SNSを使った生徒との私的なやりとりは禁止>

- 県教委は、業務的連絡や相談等以外の生徒に個人的に過度に踏み込んだ内容を含んだ電子メールやSNS等による私的なやりとりを禁じている。
- 「信頼される学校づくりを職場の力で」（県教委）に目を通しておくように。

12月21日（火） 校長より

<震災学習>

- 震災学習を通して、「3. 11」「4. 11」を風化させない。高校生が自分の言葉で正しい情報を発信できるようにすることが大切。
- 1年生は12月10日（金）にいわき震災伝承館を訪問。2年生は12月8日（水）、1年生は12月24日（金）に東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問。10年前の福島県で起きたこと（今なお終わらない、今後も続いていくこと）を見る・聞く・感じる・考えるための学びにしたい。

<新たな県総合計画>

- 令和12年度までの県土づくりの方向性を示した新しい県総合計画が令和4年4月からスタート。県の最上位計画に位置づけられている。
- 総合計画は地域社会づくりの理念に、多様性に寛容で差別なく共に助け合う、変化や危機にしなやかで強靱、魅力を見いだし育み伸ばす、の3つを掲げている。

○基本目標は「やさしさ、すこやかさ、おいしさあふれる ふくしまを共に創り、
つなぐ」としている。

○ぜひ目を通し、県土づくりの方向性を確認したい。